



南アルプス市サードブック事業

本とともに

— きみのそばに この一冊 —

【小学校4・5・6年生にすすめる本】



司書が選んだ とっておきの本を紹介します

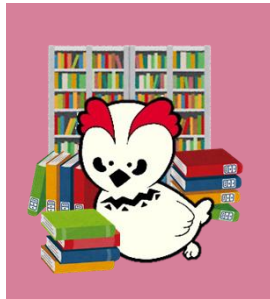
令和3年度



サードブック事業とは

南アルプス市では、家庭における読書の推進と子育てを支援するため、4か月児健康診断時に絵本を手渡す「ブックスタート事業」、小学校1年生に本を手渡す「セカンドブック事業」、さらに小学校4・5・6年生と中学生におすすめの本を紹介する「サードブック事業」を実施しています。

児童・生徒が本への親しみや興味を持ち、心豊かに成長することを願い、市立図書館司書と学校司書がおすすめの本を選びました。「小学校4・5・6年生にすすめる本」のリストと「中学生にすすめる本」のリストがあり、市立図書館のホームページからも見ることが出来ます。



図書館マスコットキャラクター

ライライ

きっと、あなたの背中を押してくれる一冊があるはずです。

本との素敵な出会いがありますように。

南アルプス市立図書館ホームページ

<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



こちらから



【 クラスメイト それぞれの立場 】

「 糸子の体重計 」
作 / いとうみく
絵 / 佐藤真紀子
出版社 / 童心社

自分にとって学生時代からの友達は、楽しい時も大変な時も一緒に乗り越えてくれる存在です。このお話に出てくる給食が大好きな細川糸子さんをはじめとする主人公たちも、表向きの「良い所」ばかりではなく、他人にはなかなか話せないことも一緒に抱えて日々を過ごしています。この本を読み終えたら自分一人での悩みを抱え過ぎず、クラスメイトの誰かの立場に少しでも寄り添って一緒に考えていけると思います。



【 元気を出したい時に 】

「 ワンダー 」
作 / R.J. パラシオ
訳 / 中井はるの
出版社 / ほるぷ出版

主人公オーガストは生まれつきの病気で顔の見た目が人と違います。度重なる手術で学校へ行けなかったのですが、通学が決まり家族は顔のことでいじめられるのではと心配します。でも、この主人公性格がとても明るいです！私も祖母に「いつも明るくないなきゃだめだよ」と言われたことを思い出し、難しいときもあるけれど、明るい気持ちでいることは自分だけでなく周囲をも変えるのだとこの本を読み納得しました。



【 映画みたい！引き込まれる絵本 】

「 海とそらがであうばしょ 」
作 / テリー・ファン&エリック・ファン
訳 / 増子久美
出版社 / 化学同人

どこまでが海で、どこまでが空なんだろう？と考えたことはありませんか。

主人公の少年フィン、おじいさんに聞いた「海とそらがであうばしょ」を求めて船を出します。

私も子どものとき、いつか大きな船に乗って、大好きな海と空が繋がる場所を探しにいきたくて願っていました。その夢が、大人になってからこの絵本を読むことで叶ったのです。

絵本ならではの幻想的なイラストが、心に響く一冊です。



【 友だちは素晴らしい！ 】

「 飛ぶ教室〈新訳〉 」
作 / エーリッヒ・ケストナー
訳 / 若松宣子
出版社 / 偕成社文庫

『飛ぶ教室』の舞台はドイツ寄宿学校。そこでくらしている五人の少年と二人の大人を中心にした物語です。この本に出てくる人たちは悩みや悲しみを抱えています。しかし彼らは不運や失敗から逃げ出さず、へこたれもしません。正義と友情を通そうと続けます。

私は子どものころにこの本と出会い、人との付き合い方と物事の考え方が大きく変わりました。大切なメッセージが詰まった素晴らしい物語です。



【 本となかよくなれる本 】

「 かみさんのいる書店 まほろばの夏 」

著 / 三萩せんや
出版社 / KADOKAWA

本と友だちになれるなんて、素敵だと思いませんか！

この書店では、生きている本〈まほろ本〉を売っています。主人公のヨミは、本に助けられた過去があり、本に恩返しをしたいと思います。この書店でなら恩返しが出来ると苦手なことにも挑戦し、本との絆を深め成長していきます。

私も高校生のとき本に助けられたことがありました。こんな素敵な書店があったら、ぜひ本とお話してみたいものです。



【 言葉は気持ちののせかた一つで変化する。 】

「 言葉屋 言箱と言珠のひみつ 」

著 / 久米絵美里
絵 / もとやままさこ
出版社 / 朝日学生新聞社

詠子が入った部屋は、絶対に入ってはいけない部屋です。これをきっかけに、詠子は言葉屋になるための修業をする事になります。伝えたい事が言えない親友にオシャレ戦争を解決するため、言葉屋として詠子は言葉を選びます。私も人に本をすすめる時、どの言葉を選べば手に取ってもらえるか考えます。手に取ってもらえると、選んだ言葉に相手が共感してくれたのかなと嬉しくなります。言葉選びの大切さが分かる本です。

【 差別を考える本 】



「 ローザ 」

文 / ニッキ・ジョバンニ
絵 / ブライアン・コリアー
訳 / さくまゆみこ
出版社 / 光村教育図書

知っていますか？アメリカでは、肌の色が違うだけでバスや電車の座席、レストランの席までもが違ったことがあったということ。私自身、この本を読んで改めてあらゆる差別を知りました。その事を伝えたくて、読み聞かせした後の6年生の表情を今でも覚えています。現在でも差別は無くなってはいけません。日本にも様々な差別があります。どうか忘れないでください。知らずに人を傷つけることの無いように。



【 オバケと友達になりたいと思った時に 】

「 紳士とオバケ氏 」
作 / たかどのほうこ
絵 / 飯野和好
出版社 / フレーベル館

オバケと友達になりたいと思ったことはありませんか？私は子どもの頃から、優しいオバケがいるのなら友達になってみたいなと思っていました。この本では、古い一軒家に一人で住む、とっても真面目なマジヒコ氏が、ある日自分とそっくりな顔をしたオバケに出会います。最初はびっくりしますが、このオバケとの交流で、真面目すぎるマジヒコ氏の生活が変わっていきます。みなさんも、二人の楽しい共同生活をのぞいてみませんか？

【 リズムよい！日本の話芸絵本 】



「 講談えほん 雷電為右衛門 雷電の初土俵 」
 監 修 / 神田伯山
 文 / 石崎洋司
 絵 / いぬんこ
 出版社 / 講談社

2年前のお正月、東京で講談を初めて聴きました。講談は日本の伝統芸能で、講談師のリズムのよい語り、私はぐっと話の中にひき込まれたのです。ある時この本を見つけ、講談風に声を出して読むと、テンポがよく迫力があります。主人公雷電は江戸時代に実在のお相撲さん。身長197センチ、体重169キログラム、254勝10敗とずば抜けた体格に、史上最強と言われた雷電の話。講談師の神田伯山さんが関わった本としても話題です。

【 自分の将来について考える本 】



「 なぜ僕らは働くのか
 君が幸せになるために考えてほしい大切なこと 」
 監 修 / 池上彰
 出版社 / 学研プラス

働くなんて遠い未来のように感じていた過去の私は、具体的な目標もなく、むやみに学生時代を過ごしてしまいました。みなさんは人生に後悔のないよう今すぐにでも夢を意識し、なりたい自分に気づいてください。この本は大人になって読み返しても別の観点から楽しめる内容になっています。幸せになるために考えてほしい大切なことの数々が、あなたを賢く勇気づけてくれることでしょう。幸せな未来を切り拓いてほしいです。

【 歴史のおもしろさを知る本 】



「 源平の風 白狐魔記 」
 著 / 齊藤洋
 出版社 / 偕成社

人間の生きざまに興味を持ったキツネが、白駒山の仙人のもとで修業し、不老不死・化身の術を身に付け「白狐魔丸」と名付けられます。離ればなれになった親・兄弟を思い出し、下山し故郷を目指す折、兄の頼朝に追われ、落ち行く義経一行に同行するのですが、そこで武士の無常を目の当たりにします。歴史上の人物の生き生きとした人柄や感情表現は、私が教科書で学んだ以上に歴史のおもしろさを知るきっかけになりました。

【 図書館がもっと好きになれる本 】



「 晴れた日は図書館へいこう 」
 作 / 緑川聖司
 絵 / 宮嶋康子
 出版社 / 小峰書店

図書館と本が大好きな小学5年生のしおりが、クラスメイトの男の子や図書館司書の従姉と一緒に、本や図書館に関する謎を解いていく連作短編小説です。作品の中に登場する図書館や人を通して、人の心の温かさや人との関わり大切さを感じられます。小さいころから本が好きだった私は、この作品のプロローグに書かれている文章が強く印象に残り、共感を覚えました。図書館をもっと好きに、もっと身近に感じられる作品です。



【 家族の良さを感じる本 】

「 唐木田さんち物語 」

作 / いとうみく

画 / 平澤朋子

出版社 / 毎日新聞出版

この物語は五男三女の八人きょうだいの大家族のお話です。バツイチ子持ちの自分の教え子の父と結婚すると言い出した長女、見知らぬ子連れを連れて久しぶりに家に帰ってきた父…。色々な問題を家族で力を合わせて解決していく、そんな家族の絆が伝わってくる一冊です。つい自分の姉弟が家を出ていくときの気持ちがよくみがえってきました。形は変わっても家族は家族であり、家族の良さを改めて実感でき、とても心が温かくなるお話です。



【 旅の始まり 】

「 夢を追う人 アラスカの詩 」

著 / 星野道夫

出版社 / 新日本出版社

一冊のアラスカの写真集の中にあった、どうしても気になる写真。そこに写っていた、あるエスキモーの村に手紙を出したことから、旅は始まりました。この本を書いた人が、旅をしながら本を読み、自分の人生を動かしていったように、私も旅先で本を読んできました。そうして読んだ『長い旅の途上』や『旅をする木』の文章が、この本にも載せられています。旅や読書が人生を豊かにすることが分かります。



【 未来に向かって夢を考えるきっかけになる本 】

「 2分の1成人式 」

著 / 井上林子

絵 / 新井陽次朗

出版社 / 講談社

「ゆめみたいなゆめだけど、ユメちゃんのゆめ、すごくいいと思う。」

小学校高学年から中学校にかけて、「将来〇〇になりたい」と楽しい夢をもつ一方で、現実には何になれるのか不安になる時がありました。この物語の主人公、小学4年生10歳のユメが自分の夢に自信がもてず、将来の夢が書けない姿は、その頃の自分と重なります。自分の将来の夢やどんな大人になりたいかを考えるきっかけになる本だと思います。



【 一歩踏み出す勇気をもらえる本 】

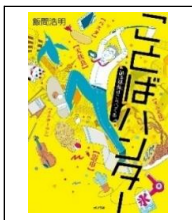
「 魔女の宅急便 」

作 / 角野栄子

画 / 林明子

出版社 / 福音館書店

魔女は13歳になるとひとり立ちしなければなりません。キキは、黒猫のジジと一緒に故郷を離れ、ひとり暮らしを始めます。学生の頃、キキの言葉が何度も私の背中を押してくれ、誰も知り合いがない環境で頑張っていた自分を支えてくれました。キキは、様々な人との出会いで成長し、その成長を楽しみに待っていてくれる家族がいるから頑張れるのだと思います。温かくて、爽やかな、大人になっても読み返したくなる一冊です。



【 将来やりたいことを探している時に 】

「 ことばハンター
国語辞典はこうつくる 」
著 / 飯間浩明
出版社 / ポプラ社

著者の飯間さんは、子供の頃から本や辞書を読むのが好きだったそうです。その好きだったことが巡り巡って「国語辞典編纂者」になりました。私は小学校高学年の時に、友達に一冊の本をすすめてもらったことが印象深く残っており、それが司書になるきっかけの一つだと思っています。みなさんの今、興味あることや体験したことが種となり、将来仕事として花開くかもしれません。自分が好きだと思うことを大事にしてください。

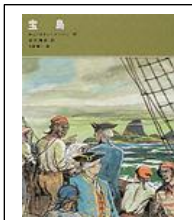


【 “なんとかなる！” も大切 】

「 小さなスプーンおばさん 」
作 / アルフ・プリョイゼン
訳 / 大塚勇三
画 / ビョールン・ベルイ
出版社 / 学研

ある日、自がさめるとティースプーンくらいの大きさになってしまったおばさん。慌てるどころか、ネズミや犬、太陽やフライパンなどを上手く扱い、その小ささを活かすかのように、楽しみながら問題を乗り越えていきます。小さくなってしまったことを気にもせず、困難に向かっていくおばさんの勇敢さに私も憧れました。考えながら慎重に進むことも大切だけれど、時には成り行きにまかせてみてもいいのかもしれない。

【 情熱と勇氣あふれる大冒険 】



「 宝島 」
作 / R.L. スティーブソン
訳 / 坂井晴彦
画 / 寺島龍一
出版社 / 福音館書店

宝島の海図を手に入れた主人公ジムは、勇氣と希望を胸に大海原へ出航します。その先に待っていたのは、海賊の宝を巡る激しい戦いと友情、そして裏切り。様々な経験を通してジムが成長していく姿にも心を動かされます。私も幼い頃、宝の地図を作って冒険ごっこを楽しみました。そして、この本は私を夢と冒険の世界へ連れていってくれました。昔から読み継がれる名作です。魅力的な登場人物たちと一緒に冒険の旅へ出かけませんか？

令和3年度

南アルプス市サードブックリスト
【小学校】

編集・発行者 南アルプス市学校司書
南アルプス市市立図書館司書

発行日 令和4年1月 Vol. 1

南アルプス市立図書館ホームページ
<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



南アルプス市サードブック事業

本とともに

— あなたに寄りそう一冊 —

【中学生にすすめる本】



司書が選んだ とっておきの本を紹介します

令和3年度



サードブック事業とは

南アルプス市では、家庭における読書の推進と子育てを支援するため、4か月児健康診断時に絵本を手渡す「ブックスタート事業」、小学校1年生に本を手渡す「セカンドブック事業」、さらに小学校4・5・6年生と中学生におすすめの本を紹介する「サードブック事業」を実施しています。

児童・生徒が本への親しみや興味を持ち、心豊かに成長することを願い、市立図書館司書と学校司書がおすすめの本を選びました。「小学校4・5・6年生にすすめる本」のリストと「中学生にすすめる本」のリストがあり、市立図書館のホームページからも見る事が出来ます。



図書館マスコットキャラクター

ライライ

きっと、あなたの背中を押してくれる一冊があるはずです。
本との素敵な出会いがありますように。

南アルプス市立図書館ホームページ

<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>



こちらから



【 本当の友だちについて考えてみる本 】

「 きみの友だち 」

著 / 重松清
出版社 / 新潮社

この本は二人の少女を中心とした連作短編小説です。物語の登場人物である「きみ」たちは、友だちに対して様々な思いを抱えています。私も含め、学校生活を送る中で、同じように友だちとの関係で悩んだ人は多いと思います。ですが、たくさん悩んで考えたことは、未来のあなたの大きな支えになるはずですよ。

「いなくなっても一生忘れられない友だちが、一人、いればいい。」友だちの言葉の意味を改めて考えさせられる一冊です。



【 同世代の作家の本 】

「 さよなら、田中さん 」

著 / 鈴木るりか
出版社 / 小学館

小学6年生の田中花実と豪快で強烈なお母さんとの、お金はないけれど、笑いあり、涙ありの日常がとても読みやすい文章で描かれています。作者である鈴木るりかさんは出版当時、中学2年生でした。中学生作家の本として、とても話題になった作品でもあります。花実の視点から現代の社会問題も描かれていますが、自分の中学時代を振り返ってみると、彼女の様には考えられなかったなと感心しつつ考えさせられた一冊です。



【 自分の世界を広げる本 】

「 ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー 」

著 / ブレイディみかこ
出版社 / 新潮社

生まれ育った家庭環境の違う友人たちと、その違いを共有しながら、笑い、泣き、汗をかいた中学時代をまざまざと思い出します。

差別、暴力、いじめ、格差。イギリスの中学校に通う11歳のぼくがぶつかる重大な壁を「他人の靴を履いてみることで」相手を尊重し、知り、自分をとりまく世界を広げながら乗り越えていきます。

パンクで熱い母ちゃんと、クールなぼくとのやりとりも絶妙です。何度でも読んでほしい一冊です。



【 私たちの生活を支えている科学者の本 】

「 科学者の目 」

文/絵 / かこさとし
出版社 / 童心社

『からすのパンやさん』シリーズでおなじみのかこさとしさんが、その優しい「目」を通して偉大な科学者たちの業績を分かりやすく紹介しています。

私も子どものころはたくさんのお話を不思議に思い、大人に聞いたり本で調べたりしていましたが、今ではすぐにネットで検索するように…。この本を読んで、すぐに答えを知ろうとするのではなく、自分の「目」で見えて考える大切さにあらためて気づくことができました。



【 モヤモヤを抱えている君へ 】

「 10代から知っておきたい
あなたを閉じこめる「ずるい言葉」 」
著 / 森山至貴
出版社 / WAVE出版

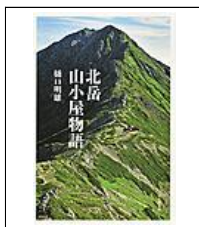
ちょっとモヤモヤするけれども言い返せないような「ずるい言葉」を言われたことはないでしょうか。「あなたのためを思って言っているんだよ」「はっきり言わないあなたが悪い」などの29の「ずるい言葉」がこの本には載っています。10代からとありますが、大人の私もそんな言葉を言われてモヤモヤしたりちょっとイラっとしたことがあります。自分自身の身を守れるように、ぜひ読んでみてください。



【 将来の仕事を考える時に 】

「 カカ・ムラド〜ナカムラのおじさん 」
原 作 / ガフワラ
訳・文 / さだまさし 他
出版社 / 双葉社

中村哲医師は、35年間にわたり病気や水不足に苦しむアフガニスタンの人々を救うため水利事業に携わり、2019年に銃撃されて亡くなりました。中村医師が好きだった言葉に「一隅を照らす」があります。一人ひとりが誠意を尽くして生きることが、社会をよくするという考え方です。私も両親の働く姿をみて、将来は誰かの役にたてる仕事がしたいと思いました。それぞれの立場で、できることを貫くことの大切さが伝わる一冊です。



【 ふるさとをもっと好きになる本 】

「 北岳山小屋物語 」
著 / 樋口明雄
出版社 / 山と溪谷社

北岳をはじめとする、南アルプスのいくつかの山に登ったことがあります。どこまでも続く緑の山々は、この世のものとは思えない美しさで、ここも南アルプス市なのだということが信じられませんでした。

そんな魅力あふれる南アルプスの山と、そこを訪れる登山者を、それぞれのやり方と思いで守ってくれているのが山小屋の人々です。彼らを取材したこの本を読むと、私たちのふるさとの素晴らしさを改めて感じるすることができます。



【 戦争の史実を詳しく知りたいと思った時に 】

「 ある晴れた夏の朝 」
著 / 小手鞠るい
出版社 / 偕成社

戦争体験者の祖父から話を聞いたことがあります。その時は漠然と戦争は怖いとだけ記憶していたように思います。

この本は、生まれの違うアメリカの高校生が日本に落とされた原爆の是非についてディベートで話し合うというものです。戦争の歴史を裏側まで調べ多くを学び、個々を尊重しつつ理解しようと力を出し合います。真摯に「知ろう」「伝えよう」とする姿勢に感動する奥の深い一冊です。



【 夢をあきらめない強い気持ち 】

「 バッタを倒しにアフリカへ 」

著 / 前野ウルド浩太郎
出版社 / 光文社新書

「バッタの大群に食べられたい」という夢を胸に秘め、バッタの研究者として単身アフリカに渡った作者が大変な苦勞や試練に見舞われる中、持ち前のバイタリティーとユーモアで夢への道を切り開いていきます。私は虫が大の苦手な作者の夢には共感できませんが、この本を読んでいる間、作者と一緒に夢を追いかけて、そのひたむきな姿に勇気をもらいました。夢を持っている人にも、そうでない人にも読んでほしい一冊です。



【 命と向き合い感謝の心がもてる本 】

「 左手一本のシュート 」

夢あればこそ！脳出血、右半身麻痺からの復活」
著 / 島沢優子
出版社 / 小学館文庫

コロナ禍で新しい生活様式に変化した今、健康でいられる事や命について考える事が多くなりました。健康でいられる喜びと自分を大切にする事は、他人を思いやり感謝する心に繋がる事だと思います。主人公がどん底から復活する過程では、身近な多くの人に関わっています。私もそうでしたが、中学時代は大人からのアドバイスを素直に受け入れられない時期だと思います。多感な時期に多くの人と関わり、感謝する心を育ててください。



【 自分を信じて前向きに生きる 】

「 赤毛のアン 」

著 / L.M.モンゴメリ
訳 / 村岡花子
出版社 / 新潮文庫

空想好きな夢見る少女アン。美しい自然の中で繰り広げられる少女の成長を描いた物語で、明るく前向きなアンに勇気をもらえます。困難にあった時思い出す名言も多く、私もこの本の言葉に何度も背中を押してもらいました。生涯何度でも読み返したい、心の中の友達になってくれる本だと思います。

人生の「曲がり角をまがったさきになにがあるのかは、わからない」けれど、幸せな世界が待っているとさせてくれる一冊です。



【 生き方を見つめなおす本 】

「 カラフル 」

著 / 森絵都
出版社 / 理論社

人生の再挑戦という面白い設定で始まる物語です。主人公は、自分ではない人間の目で世界を見ることで、今まで見えてこなかった物、ことに気付くことができます。私もそうでしたが、中学校時代は周りを見る余裕を持つのが難しいかもしれません。しかし、一方面だけでなく視点を考えてみれば、もっと世界を広げることができます。後悔しただけでやり直してまた頑張ればいい、そんな考え方を自分に与えてくれる作品です。



【 未来を生きる君たちに贈る本 】

「 未来をつくる君たちへ
司馬遼太郎作品からのメッセージ 」
著 / 立花隆 関川夏央 松本健一
出版社 / 日本放送出版協会

司馬遼太郎作品の中から、幕末から明治にかけて激動の時代を生きた緒方洪庵、正岡子規、高田屋嘉兵衛のことがわかりやすく取り上げられています。思春期のころ、この先、どんな風に生きていこうかと考え、未来について漠然とした不安を感じたことがあります。この本の静かな語り口は、自分に向けられた言葉のように感じられて勇気をもらえました。「自分の頭」で「考えること」の大切さを思い出させてくれる一冊です。



【 困ったとき迷ったときにヒントをくれる本 】

「 なによりも大切なこと 」
著 / あさのあつこ
出版社 / PHP研究所

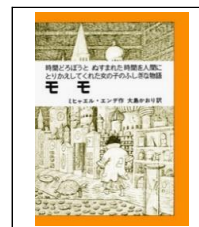
『バッテリー』をはじめとして、あさのあつこさんの作品の中から、10代の繊細な心に寄り添うあたたかい言葉が集められたメッセージブックです。私自身もそうでしたが、中学生のころは自分のこと、友達のこと、将来のことなど、たくさん悩み考え、変化する時期だと思います。そんなときにヒントが得られたり、そっと背中を押してもらえたり、心が軽くなったりする一冊です。



【 自分の気持ちを大切にしたい時に 】

「 リズム 」
著 / 森絵都
出版社 / 講談社

主人公のさゆきは中学1年生。兄のように慕っている真治は音楽の道に進もうとしています。周りの反応は良くありません。周囲はさゆきの気持ちとは関係なく、今までとは変化していきます。変わらないものが好きだというさゆきの気持ちに共感して、私も中学生の時に繰り返しこの本を読みました。自分の気持ちを大切にしたい時、周囲の変化に戸惑ってしまう時に、この本を手にとってみてください。



【 豊かな生き方に気づかせてくれる本 】

「 モモ 」
作 / ミヒヤエル・エンデ
訳 / 大島かおり
出版社 / 岩波書店

突然街へ現れた灰色ずくめの時間泥棒。不思議な少女モモが彼らが奪った時間を人々に取り戻すため闘います。私は学生時代に優しさとスリル溢れるこの本に出会い、わくわくハラハラしながら夢中で読みました。そして数十年後に再読し、時間の意味と豊かさについてのメッセージが忘れかけていた大切なものを思い出させてくれました。まずは若い感性でこの冒険ファンタジーを堪能し、いつかまた読み返してほしい一冊です。



【 死について考える本 】

「 夏の庭 The friends 」

著 / 湯本香樹実
出版社 / 新潮文庫

夏休み前、少年三人はひよんな思い付きで近所に住む一人暮らしのおじいさんの様子を観察し始めました。少年たちはおじいさんとの交流を通して、次第に死というものを考えていきます。同じ年頃に私も祖父を亡くし、はじめてしっかり「死」というものに向き合いました。これから先、「死」に向き合った時に自分のここを守れるように、本書を読んで考えてほしいと思います。

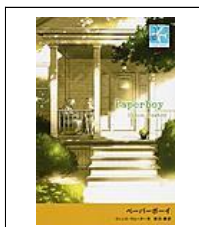


【 大切な人に想いを伝えていないと感じた時に 】

「 最後だとわかっていたら 」

作 / ノーマ コーネット マレック
訳 / 佐川睦
出版社 / サンクチュアリ出版

この詩は2001年9月11日に起こった同時多発テロの後、世界中に広く知れ渡りました。「無関心や忙しさから愛する人にその愛を伝えることを忘れてしまわないように、この詩が伝えるきっかけになるように」との作者の思いが込められています。私も後悔して忘れられないことがありましたが、この詩に出会い、過去にとらわれるのではなく、これからの日を悔いのないように過ごしていけたらと思えるようになった本です。



【 「言葉」について、何が大切なのかを問う物語 】

「 ペーパーボーイ 」

作 / ヴィンス・ヴォーター
訳 / 原田勝
出版社 / 岩波書店

1959年、人種差別も色濃いテネシー州での物語です。夏休みの間、友達に代わり新聞配達をすることになった主人公には吃音の悩みがありました。しかし、人種を超えて導いてくれる人達とのやり取りがその後の彼に自信を与えてくれます。私も中学生で同州に短期留学したことがあり、言葉や人種の壁を感じる出来事がありました。言葉を交わし、理解しあえる寛容さを忘れてはいけなかったと思います。

令和3年度

南アルプス市サードブックリスト
【中学校】

編集・発行者 南アルプス市学校司書
南アルプス市市立図書館司書

発行日 令和4年1月 Vol. 1

南アルプス市立図書館ホームページ
<http://m-alps-lib.e-tosho.jp>